NPO

花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会

Therapeutic Promotion Society for Pollinosis and Rhinosinusitis

VOL.7

www.hanamizu.jp

巻頭のご挨拶

「パンフレット（第7号）」の刊行に寄せて

2019年の花粉飛散は前年度2018年がある程度花粉飛散が多かったため、平年並みとの予想で、結果もほぼその通りでしたが、2018年より飛散が多い地域が多いと感じました。平年の値が地域ごとに異なっているので、一概に多い、少ないというのは非常に難しいと思います。さらに近年の気象変動も大きく、過去のデータがうまく使用できないことで、おおよその飛散予想は可能ですが、細かいところまでは当てにくい現状があります。さて2020年は2019年夏がそれほど暑くなかったのと前2年間花粉飛散が多かったので、少ないスギ・ヒノキ花粉飛散が予想されています。それでも症状悪化に必要な花粉数には十分なため、我々のNPO法人では花粉症でお困りの方に何らかのアドバイスが出来ればと思います。

さて今回のNPO法人「花粉症・鼻副鼻腔治療推進会」の市民講演会は我々の教室、日本医科大学耳鼻咽喉科学教室が主催します「第38回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会」との共催で、その学会講演会会場での開催になっております。私が基調講演「今年の花粉症、最新の話題」として花粉飛散の特徴や日常生活にあっての注意点、新しい治療法などにターゲットを当てています。また副題「SNSデータで花粉症と戦う」にありますように、奈良先端科学技術大学院大学研究推進機構ソーシャル・コンピューティング研究室特任准教授の荒牧英治先生に「つぶやきが見守る健康社会」と題して、一般社会からみた花粉症について講演をして頂きます。いくら花粉飛散が少なくても毎年同じ症状が出る皆様はおられますし、眠気、仕事がはかどらないなどの問題点があります。まずは日常生活でのスギ花粉を吸わない事、出会わなくさせる方法などから、スギ花粉を回避する事、規則正しい生活、食事などを心がけて症状が悪化しないようにさせる方法などをお話したいと考えます。またご存じだと思いますが、舌下免疫療法が錠剤となり、使いやすくなってきています。皆様が理解して先生方と上手に治療を進めていって頂けるように説明させて頂きます。

花粉症は季節の病気ではありません。毎年毎年やってくる慢性の病気であり、その原因がはっきりしています。このため、正しい知識を持って、花粉症シーズンに向かう事によって、このシーズンを上手く乗り切って頂けるようにNPOとしてお手伝いが出来ればと思っています。また副鼻腔炎に対しても正しい知識をもって頂き、いくつかある治療法の中から自分にあった治療法を選択できるようにNPO講演会から何かを得て頂ければ幸甚です。是非、ご参加をお待ちします。

ホームページ http://hanamizu.jp

令和2年1月10日

特定非営利活動法人
花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
理事長　大久保公裕

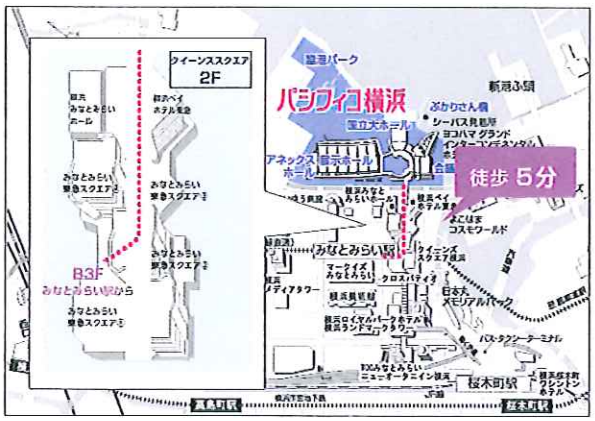
第38回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会中に横浜開催！
アレルギー週間「第7回 花粉症市民講座」

花粉症治療最前線 ～SNSデータで花粉症と戦う!～

［主催］特定非営利活動法人（NPO）花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
［共催］第38回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会／公益財団法人 日本アレルギー協会関東支部

日　時　2020年（令和2年）2月29日（土） 14:00～16:00（13:40受付開始）

場　所　パシフィコ横浜 会議センター 5階501会議室
神奈川県横浜市西区みなとみらい1-1-1
TEL:045-221-2155（総合案内）



アクセス
- みなとみらい線（東急東横線・副都心線直通）
  「みなとみらい駅」
  クイーンズスクエア連絡口より徒歩5分
- JR京浜東北線・横浜市営地下鉄
  「桜木町駅」より徒歩12分
  バスで11分（桜木町バスターミナル4番のりばより、市営バスにて「展示ホール」または「パシフィコ横浜」下車）

参加費　無料（ただし事前の登録（申し込み）が必要です。）

定　員　先着100名様

プログラム

13:40	受付開始
14:00	開会のご挨拶 ： 大久保公裕（NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会　理事長）
14:10	基調講演　「今年の花粉症、最新の話題」 講師：大久保公裕（日本医科大学大学院 頭頸部・感覚器学 教授）
14:40	招待講演　「つぶやきが見守る健康社会」 講師：荒牧英治（奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構ソーシャル・コンピューティング研究室 特任准教授）
15:40	質問コーナー（お申し込み時にお寄せいただいたものを優先してお答えします。）
15:50	閉会の挨拶　松根彰志（NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会　副理事長・事務局長）

お申し込み方法
- ホームページでお申し込みください
  http://hanamizu.jp/　にアクセスいただき、専用フォームにご入力ください。
  整理番号等を書いた受講証を返信先メールアドレスにお送りします。

締　切　2月21日（金） ※定員に達し次第募集を終了いたします。※電話・FAXでのお申し込みは受け付けておりません。

※アンケートをご記入いただき受付デスクへのご提出にご協力ください。筆記用具をご持参ください。

【司会】松根 彰志

NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会　副理事長・事務局長

1984年　鹿児島大学医学部医学科卒業　1988年　鹿児島大学大学院医学研究科修了
1988年～90年　アメリカ合衆国　ピッツバーグ大学　耳鼻咽喉科・頭頸部外科　留学
2000年～11年　鹿児島大学　耳鼻咽喉科・頭頸部外科　助教授、同大学院　准教授
2011年　日本医科大学武蔵小杉病院　耳鼻咽喉科　部長（臨床教授）
2015年　日本医科大学医学部　耳鼻咽喉科学　教授
日本耳鼻咽喉科学会　代議員、日本鼻科学会　常任理事、川崎市耳鼻咽喉科医会　副会長

講演内容（抄録）

基調講演「今年の花粉症、最新の話題」

講師：大久保公裕（日本医科大学大学院 頭頸部・感覚器学 教授）

今年も来月には、スギ花粉の本格的な大量飛散、およびそのピークの時期がやってきます。スギ・ヒノキ花粉症をお持ちの方にはつらい時期です。けっして、命を落とす病気ではありませんが、学校や職場での、あるいは地域での日常生活の活動性、効率などを低下させる典型的なQOL疾患（QOL; quality of life; 1人1人の人生の内容や社会的に見た生活の質のこと）です。くしゃみ、鼻水、鼻づまり、目のかゆみなどのスギ花粉症の症状は、花粉飛散量が多ければ強くなります。今年のスギ花粉量は、特に関東地方からに西では昨年や例年と比べて少なめのようです。

こうした、花粉症に対する有効な対策や治療法はいろいろあります。今回は、最近の新しい薬物治療や免疫療法などについてご紹介します。他にも従来から花粉対策グッズの活用、場合によっては手術治療もあり、これらを個々人の生活様式に合わせて選択するとともに、組み合わせることによって効果を出していただければと思います。講座では、基調講演としてわかりやすく、治療の選択肢、特に新しいものを中心にお話する予定です。

大久保公裕 / 日本医科大学大学院 頭頸部・感覚器学 教授

1984年　日本医科大学 卒業、1988年　日本医科大学大学院修了
1989年～1991年　アメリカ国立衛生研究所（NIH）留学
日本医科大学大学院 医学研究科 頭頸部・感覚器科学分野教授
日本耳鼻咽喉科学会 代議員
日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 理事長
第38回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会（2020年、東京）会長
日本アレルギー学会 常任理事
第63回日本アレルギー学会秋季学術大会（2013年、東京）会長

招待講演「つぶやきが見守る健康社会」

講師：荒牧英治（奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構　ソーシャル・コンピューティング 研究室 特任准教授）

今，医療が変わりつつあります。カルテなどに集積される医療ビッグデータ、それを用いた人工知能による診断支援、さらには、スマートフォンやスマートスピーカといった新たなデバイスからの情報の収集など、様々な材料，技術が登場しています。中でもまったく新しい情報源として注目されている技術がソーシャルメディアデータです。Facebookによる近況報告、LINEによる交信、ショッピングサイトによる商品購入、Instagramによる写真の共有などがあります。今や，国民の大多数が何ら化のソーシャルメディアを用いています。特に、日本では、東日本震災以降、Twitterなどのソーシャルメディアが電話やテレビと並ぶインフラとして認知されつつあります。ソーシャルメディアは、個人のデータに紐付いたデータを扱え、なおかつリアルタイムな情報という従来ない特性を持っており、現在、これを利用して、医療情報の収取や公開を行う試みが始まっています。本講演では、つぶやきを用いた感染症・花粉症の流行推定などの具体的な研究事例を紹介し、議論したいと考えています。

荒牧英治

2000年 京都大学総合人間学部基礎科学科卒業
2002年 京都大学大学院情報学研究科 修士課程修了
2005年 東京大学大学院情報理工系研究科 博士課程修了．博士（情報理工学）
2005年 東京大学医学部附属病院 特任助教
2008年 東京大学 知の構造化センター 特任講師
2013年 京都大学デザイン学ユニット 特定准教授
2015年 奈良先端科学技術大学院大学 研究推進機構 特任准教授 現在に至る

NPO活動

1）NPO定期役員会・総会を開催

日　時　2019年（令和元年）8月18日（日）　18時30分～19時
場　所　ステーションコンファレンス万世橋
内　容　第6期（平成30年7月1日～令和元年6月30日）決算・事業報告了承
第7期（令和 元年7月1日～令和2年6月30日）決算・事業計画承認

2）第6回花粉症市民講座を開催

日　時　2018年（平成31年）2月17日（日）
場　所　東京都千代田区平河町　都市センターホテル
共　催　NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
公益財団法人　日本アレルギー協会　関東支部
講演内容　司会　宮本昭正　（公益財団法人　日本アレルギー協会　顧問）
演題　難病指定、難治性鼻副鼻腔炎（ちくのう症）の症状と治療
講師　松根彰志　（日本医科大学　耳鼻咽喉科学　教授）

演題　舌新しい花粉症治療の誕生と「花粉暴露室」
講師　橋口一弘　（新宿区左門町　ふたばクリニック院長、NPO理事）

3）市民公開講座 in 第58回日本鼻科学会総会（主催　日本医科大学・耳鼻咽喉科）

開会の挨拶　大久保公裕　第58回日本鼻科学会会長、NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会理事長

日　時　2019年（令和元年）10月5日（土）　13時～14時
場　所　都市センターホテル
テーマ　鼻の病気の最前線：アレルギー性鼻炎と副鼻腔炎
共　催　NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
平成31年度厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
（代表　福井大学医学部　耳鼻咽喉科学　教授　藤枝重治）
講演内容　司　会　坂下 雅文（福井大学医学部　耳鼻咽喉科学　講師）
講演1　ここまで進んだ花粉症治療
講　師　後藤　穣（日本医科大学医学部　耳鼻咽喉科　准教授、NPO理事）

講演2　減った「あおっぱな」、増える「難治性ちくのう」
講　師　高林哲司　（福井大学医学部　耳鼻咽喉科　講師）

4）第8回神奈川気道炎症病態研究会（代表世話人 松根彰志）を支援

日　時　2019年（令和元年）11月1日（金）
場　所　横浜市　崎陽軒
共　催　NPO花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会　杏林製薬（株）
講演内容　座長　折舘伸彦　（横浜市立大学医学部　耳鼻咽喉科　教授）
演題　上皮バリアからみた上気道ウイルス感染
講師　高野賢一　（札幌医科大学　耳鼻咽喉科　教授）

座長　金子 猛　（横浜市立大学　医学部　呼吸器病学 教授）
演題　重症喘息の気道炎症と治療
講師　永田 真　（埼玉医科大学 呼吸器内科 教授　アレルギーセンター センター長）

5)共同研究

◆ 今回の招待講演とも関連して

今回、講座で招待講演としてご登壇いただく荒牧英治先生の研究グループ(奈良先端科学技術大学院大学)と当NPOは、SNSのつぶやきを活用した、スギ・ヒノキ花粉症疾患サーベイランスの共同研究を行っています。この内容は、講座当日の荒牧先生のお話の中でも一部ご紹介があると思います。

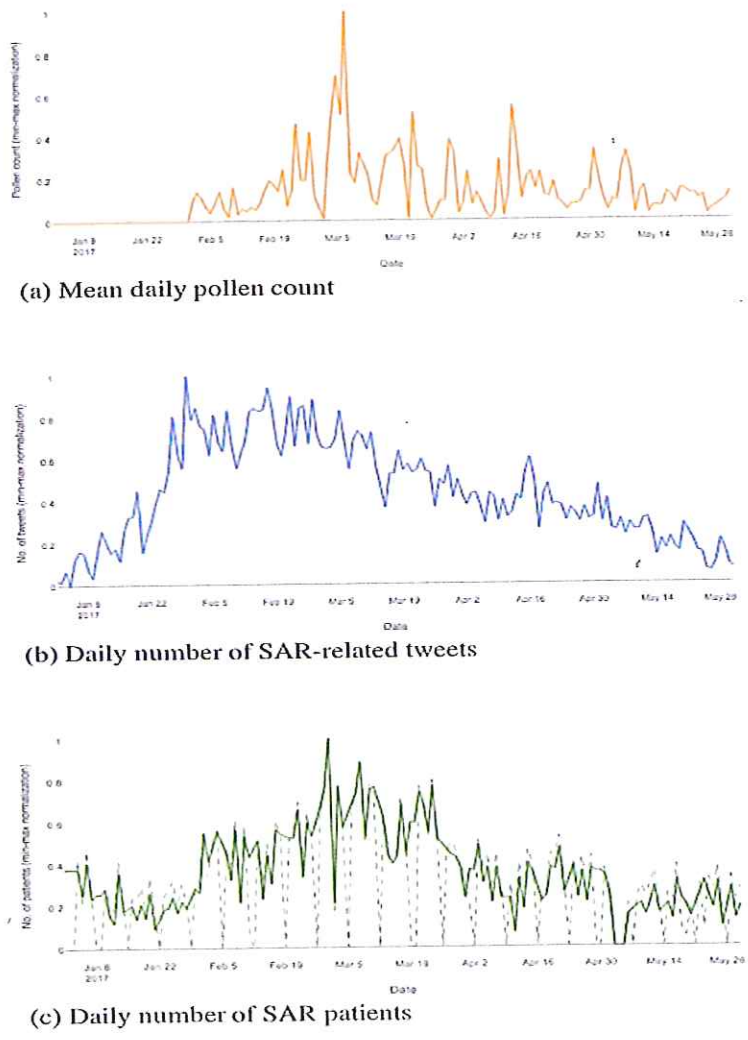
共同研究の内容は、以下のような英文論文として発行されており、インターネットでも詳細に見ることができます。当NPOにとりまして重要な学術・研究活動と考えています。

タイトル:Causal Relationships Among Pollen Counts, Tweet Numbers, and Patient Numbers for Seasonal Allergic Rhinitis Surveillance: Retrospective Analysis.
著　　者:Wakamiya S、Matsune S, Okubo K, Aramaki E
雑 誌 名:Journal of Medical Internet Research. 2019年(http://www.jmir.org)

1. 花粉の飛散量情報
2. 花粉症患者の医療機関受診　(協力医療機関3か所)
3. ソーシャルメディアへの花粉症関連投稿(つぶやき)数

以上の3つのパラメータ(図参照)の関連について、神奈川県川崎市を中心に検討しました。つぶやき数の増加が少し先行して、花粉数の最大飛散と医療機関受診のピークがほぼ同時期に来ているように見えます。つぶやき数の著増時期は、拾い上げる単語の内容を操作することにより早めにしたり遅めにしたりすることができると思います。

花粉の飛散(カウント)数をもとにしたサーベイランスがこれまでも、そして現在も基本ですが、観測点を設けることは簡単なことではありません。大小種々のエリアでのサーベイランスを考える時など、(必ずしも花粉飛散数を基にせず)標的としたつぶやき数をもとにしたサーベイランスのシステムを構築することも一考に値すると考えます。個人や地域でのQOL向上のための情報源として、関連商品の販売や関連事業の運営などの参考資料としてなど、いろいろな活用法が考えられるのではないでしょうか?進化を期待したいと思います。

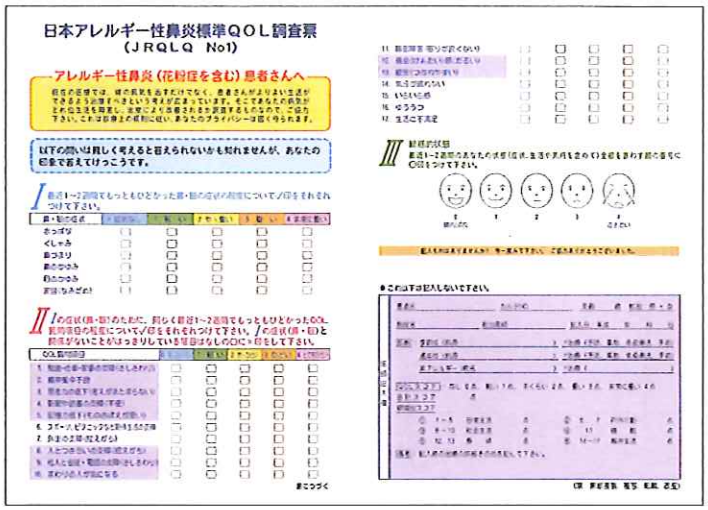


(a) Mean daily pollen count
(b) Daily number of SAR-related tweets
(c) Daily number of SAR patients

◆ 日本アレルギー性鼻炎標準QOL調査票（JRQLQ）の著作権等につきまして

既にお知らせしておりますが、当NPOの顧問、理事をお勤めいただいた故奥田 稔氏のご遺志により、現在臨床研究や臨床試験で広く使われております日本アレルギー性鼻炎標準QOL調査票（JRQLQ）（写真）は、今後当NPOで引き継いで管理していくこととなりました。

JRQLQのご使用に関しましては、医師または医療機関主導による研究目的でない場合はいわゆる「営利目的」またはそれに準ずる扱いとなり、使用規定を承諾いただいた上で、「申し込み」と「契約」が必要です。また料金もお支払いいただくことになります。医師または医療機関主導による研究目的の場合は、料金のお支払いは不要ですが「申し込み」と「契約」は必要ですので、何卒ご理解賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



＜本件のお問い合わせ＞
NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会　本部
（日本医科大学付属病院　耳鼻咽喉科・頭頸部外科内、大久保公裕）

「花粉対策の日」、「アレルギー週間」、「鼻の日」のご紹介

◆ 1月23日 「花粉対策の日」 JAPOC

当NPOが医療サイドからのアドバイザー参加をしております花粉問題対策事業者協議会（JAPOC: Japan Anti-pollinosis Council）が提唱し、一般社団法人「日本記念日協会」が認定した記念日です。その趣旨は、「花粉症にはワン・ツー・スリーの対策を！」ということで、以下の3項目がその内容です。詳しくは、URLをご覧ください。(http://www.kafunbusiness.org/step)

ワン: 花粉対策は、花粉飛散日にかぎらず早め早めの対策が必要です！

ツー: 花粉対策は、スギ花粉飛散が多くなる1月、2月、3月の時期に適切におこないましょう！

スリー: 花粉対策は、いろいろな手段を総合的に組み合わせておこないましょう！

◆ 2月17日～2月23日 「アレルギー週間」 日本アレルギー協会

公益財団法人 日本アレルギー協会により1995年（平成7年）以来、毎年2月17日～2月23日を「アレルギー週間」とすることが定められた。石坂公成先生がIgE抗体を発見し、米国のアレルギー学会で発表された2月20日を「アレルギーの日」と制定し、その前後1週間（毎年2月17日～23日）を「アレルギー週間」として様々な活動を行っています。東京でのアレルギー週間中央講演会をはじめ、全国の支部で一般の方を対象に様々な催しを行っています。

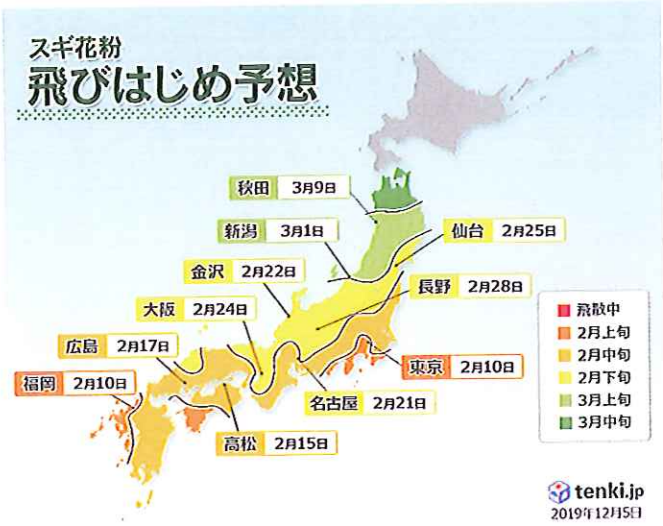
◆ 8月7日 「鼻の日」 日本耳鼻咽喉科学会

一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会では、1961年（昭和36年）以来、毎年8月7日を「鼻の日」と制定して鼻疾患に対する啓発を行っています。制定当時は副鼻腔炎（蓄膿症）の患者さんが多く、社会生活や学業に大きな影響を与えていたので、この疾患の早期発見、早期治療を勧めることを目標にしていました。副鼻腔炎は、軽症化の傾向にありますが、依然、頻度としては多い疾患です。幸い薬剤の進歩や内視鏡手術の普及により治癒率が向上しています。一方、スギ花粉症などのアレルギー性鼻炎は、近年さらに頻度が上昇しており、国民病とまでいわれるようになってきました。また、においの障害は生活の質（QOL）と関連して大きな問題ですが、まだまだ社会的認知が十分でない状況です。

スギ花粉症、アレルギー性鼻炎　ひと口メモ 日本気象協会　tenki. jp

スギ花粉症予報（2020年、予報）

2020年春の花粉飛散予測は、九州から関東甲信まで例年より少ない見込みです。特に、九州は非常に少なく、中国や近畿でも非常に少ない所があるでしょう。東北はおおむね例年並み、北海道はやや多い予想です。一方、前シーズン比で見ると、九州から東海は、広い範囲で非常に少ない見込みです。関東甲信、北陸も少なくなる予想です。東北は大体前シーズン並みでしょう。北海道と青森では非常に多くなる予想ですが、これは前シーズンの飛散量が例年より非常に少なかったためです。



地方	飛散量（地方平均値 %）		2019年夏の気象		
	例年比	前シーズン比	気温	降水量	日照時間
北海道	やや多い（130%）	非常に多い（300%）	高い	多い	平年並
東北	例年並（90%）	前シーズン並（90%）	高い	平年並	平年並
関東甲信	やや少ない（70%）	少ない（50%）	高い	多い	少ない
北陸	例年並（90%）	少ない（50%）	高い	平年並	平年並
東海	やや少ない（70%）	非常に少ない（40%）	高い	多い	少ない
近畿	少ない（50%）	非常に少ない（30%）	平年並	多い	少ない
中国	少ない（50%）	非常に少ない（30%）	平年並	平年並	少ない
四国	少ない（50%）	非常に少ない（30%）	平年並	多い	少ない
九州	非常に少ない（30%）	非常に少ない（20%）	平年並	多い	少ない

謝　辞

今回も多くの企業様、団体様に「特定非営利活動法人（NPO）花粉症・鼻副鼻腔治療推進会」の活動をご理解、ご賛同いただいております。お陰様で「花粉症市民講座」の開催、従来からのホームページの運営、2017年からのホームページのスマートホン対応などなど、紙面でご報告させていただいている活動を行うことができています。ここに心よりお礼を申し上げます。感謝の意を込めまして、お名前を掲載させていただきます。（50音順）

今後とも尚一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

NPO 理事長　大久保公裕

社会医療法人 翔和仁誠会
社会医療法人 正志会
社会医療法人 石心会

アステラス製薬
杏林製薬
グラクソスミスクライン
サノフィ
SIEMENSヘルスケア
大鵬薬品工業
田辺三菱製薬
東京鼻科学研究所
東京臨床薬理研究所
鳥居薬品
バイエル薬品
Meiji Seika ファルマ
モリタ製作所

令和元年12月末日現在

NPO 花粉症・鼻副鼻腔炎治療推進会
パンフレット第7号

編集責任者　松根彰志
U　R　L　http://hanamizu.jp/

印　　刷　2020年1月31日
印　刷　所　エヌ・ピー・エフ株式会社（東京都港区）
U　R　L　http://www.npfbros.co.jp